

テーマ JAと株式会社の違いについて

第4回目となる今回は、「JAと株式会社の違い」がテーマです。

私たちの「協同組合」と「株式会社」とは、何が違うのでしょうか？

銀行やホームセンターなどと同じようにも見えますが、協同組合と株式会社には根本的な違いがあります。その中から主なものを見てみましょう。

相違点1 「目的」

❁ 協同組合は「相互扶助(互いの助け合い)」により、組合員の生産と生活を守り向上させることが目的です。組合員から儲けようという目的はありません。

❁ 株式会社は、会社としてできるだけ多くの利益をあげて、これを株主(投資家)に配当することです。

エピソード

ある大手の乳業会社は、大正14年に北海道製酪販売組合を設立。翌15年には連合会組織となり、協同組合として組合員の生産と生活を守るため事業を行ってきました。しかしその後、昭和25年に株式を上場し、利潤を追求する完全な企業に変貌しました。

「裏切られた」想いの農家は、昭和42年、十勝の8農協とホクレンの出資で北海道協同乳業(現・よつ葉乳業)を新たに立ち上げました。同乳業は株式を非上場とし、現在でもJAグループ以外の資本からの支配を排除しているのです。



相違点2 「運営方法」

❁ 協同組合は「1人1票制」による民主的運営です。出資金の多寡によって発言力や議決権に差がつくことはありません。



❁ 株式会社は「1株1票制」です。人の数ではなく株式の数によって発言力や議決権が決まります。

相違点3 「組織者・利用者・運営者」

❁ 協同組合は、自分たちが利用するために組合を作り、運営も行ないます。

❁ 株式会社では、株主は配当や株価の値上がりによる利益を期待して株を購入します。会社を利用するために取得するものではありません。

※ “想い”は“ことば”に

銀行の「預金」は客から“預かる”ことですが、JAの「貯金」は組合員が“貯(たくわえ)る”意味です。「共済」は“共に済(すく)う”と読み、互いに加入することで自分自身だけでなく仲間の窮状を救うという意味です(相互扶助)。「購買」は肥料などを“共同購入”して組合員に供給することで、決して購売でも販売でもありません。JAの“ことば”は、「組合員の目線」になっているのです。



えみ
笑味ちゃん(小学2年生)

いつも明るく元気な女の子。
好奇心おうせいで、思っていることは素直に口にします。
食べることが大好きです。
国産農産物の消費拡大と食料自給率向上を目指した
「みんなの良い食プロジェクト」のシンボルマークです。

JAグループ 福島
耕そう、大地と地域のmiraい。

みんなのよい食プロジェクト